# Sakura 3.11 Project ～東北4県の心を結ぶプロジェクト～

## 2015年11月7日
## 福島県新地町立
# 駒ヶ嶺小学校

桜 3.11 学校プロジェクト 12 回目は、福島県新地町立駒ヶ嶺小学校での実施となりました。

新地町は、福島県浜通りの最北に位置し、北と西を宮城県に接しています。自然豊かな町の主産業は、水稲を中心にした農業と親潮と黒潮がぶつかる潮目に好漁場をもつ漁業です。また、本町をふくむ相馬地域の総合的開発をめざした「相馬地域開発計画」により、重要港湾や新地火力発電所を背景に中核工業団地が生まれ、新しい発展拠点として期待されています。震災時約9mの津波は、市内で死者116名、全半壊577戸の甚大な被害をもたらしました。

駒ヶ嶺小学校は明治 5 年創立。近くの新地駅は駅舎や線路も流され今の不通のままですが、駒ケ嶺小学校はなんとか被害を免れました。現在も学区内には 2 カ所の仮設住宅があり、津波の被害だけでなく原発の立ち入り制限区域等で避難されている方が住んでいます。駒ケ嶺小学校にも震災以前の在校生に加え浪江町や南相馬市などから区域外就学として児童 22 名を迎えています。

震災から 4 年半が経ち記憶が薄らぐ中、震災直後の生活を忘れないために体育館で不自由な夜を過ごそうと父母と教師の会が『学校へ泊まろう会』を企画しました。その一泊二日の中で、桜 3.11 学校プロジェクトも「忘れないため」の手がかりを一緒に作っていきます。

[http://sakura-art311.net]

**津波の到達ラインを桜が描きます。**
**「ここまで津波は来たのだ」という標(しるし)です。**

関連企画 ワークショップ

### 『巨大壁画を描こう』

新地町沿岸は、津波被害からの復旧工事中です。その工事の様子が分かるように大きな展望台が作られました。殺風景な展望台の壁面（2m×13m）をパルコキノシタと参加者 140 人で描きました。班に分かれ子ども達が色々な画材を使いながら思い思いの魚を書き、約 2 時間で完成。独創的な魚に目を奪われます。子どもはホントに天才です。

＜バルーン WS＞
壁画作成の合間を利用して、風船に絵やメッセージを書きます。朝からの小雨もやみ、曇り空を縫って 300 個のバルーンが風にのって飛んでいきました。

＜植樹式＞
子ども達の毎日を見守るように学校の中心にオオシマザクラを植えました。植樹式では「ふるさと」（嵐バージョン）が歌われ、桜がふるさとのシンボルとして仲間入りしました。

＜PTA企画『学校へ泊まろう』＞
植樹式に続き「学校へ泊まろう」に突入。段ボール工作（体育館での寝床作り）、火おこし、サバメシ、夜の学校探検、紙芝居…と続きます。火も暖もない体育館で「あの夜」を過ごします。
（桜3.11メンバーも参加）

＜鎮魂と希望の桜花火＞
手持ち花火を楽しんだ後、頭上に花開く迫力の花火に感動。

**＜参加者＞**
児　童　　93 名　教職員　7 名
保護者・地域住民　約　41 名

RING!RING! プロジェクト
この事業は、競輪の補助を受けて実施しました。